

事務事業マネジメントシート (20年度実績と21年度計画)

21年度予算編成後平成 21 年 3 月 22 日 作成
20年度決算把握後平成 21 年 6 月 日 作成

事務事業名		高齢者教養講座事業		<input type="checkbox"/> マニフェスト 関連	<input type="checkbox"/> 全庁横断 課題関連	<input type="checkbox"/> 集中改革 プラン関連	
総合 計画 体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり	所属部	教育委員会	課長名	高木敏明
	施策	16	高齢者・障害者の自立促進と社会参加	所属課	生涯学習課	担当者名	甲斐朝子
	基本事業	47	高齢者の社会参加の促進	所属班	生涯学習班	(内線)	1502
				法令根拠			

予算科目	会計	款	項	目	事業連番	<input type="checkbox"/> 20年度で終了	<input type="checkbox"/> 21年度から開始	成果優先度評価結果	5
	1	10	5	3	10446			コスト削減優先度評価結果	9*5

事業期間 単年度のみ 単年度繰返(開始年度 昭和48 年度) 期間限定複数年度 (~ 年度)

事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】
向学意欲のある高齢者に元気に学習していただくことで、生涯現役での社会参加を促進する。

【業務の流れ】
5月から翌年3月まで月1回(合計11回)の月替わり学習会をヴィーブル文化会館で開催し、様々なテーマで高齢者に応じた生涯学習を講じている。年度末には、記念文集「駿馬」を編集発行している。

【主な予算費目】
報償費(講師謝礼)、需用費(印刷製本費)、使用料及び賃借料

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		
① 手段(主な活動)	21年度計画(21年度に計画している主な活動)(PLAN)	
20年度実績(20年度に行った主な活動)(DO)	20年度に同じ	
平成20年5月に開講し、月1回の開催で計11回の講座を設け、21年3月で修了証を交付。出席回数が7回以上の方に修了証を交付する。(122名該当)		
	⑤活動指標(事務事業の活動量を表す指標)=①の指標 (単位)	
	ア 講座参加者数(延べ)	人
	イ	
② 対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等	⑥対象指標(対象の大きさを表す指標)=②の指標 (単位)	
市民(旧合志地域の60歳以上の高齢者)	ア 旧合志地域の60歳以上の人口	人
	イ	
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	⑦成果指標(意図の達成度を表す指標)=③の指標 (単位)	
生涯生きがいを持って学習してもらおう。	ア 地域に仲間がいると思う高齢者数	人
	イ	
④ 上位の目的(さらにどんな目的に結び付けるのか)	⑧上位成果指標(上位目的の達成度を表す指標)=④の指標 (単位)	
生きがいをもって地域への還元や社会参加する高齢者が増える。	ア 老人クラブへの加入者数	人
	イ サロンへの参加者数	人

(2) 総事業費・指標等の推移

		単位	18年度 実績(決算)	19年度 実績(決算)	20年度 目標(当初予算)	20年度 実績(決算)	21年度 目標(当初予算)	22年度 (目標)	23年度 (予定)	全体計画 ~ 年度
投入量	事業費	国庫支出金	千円							総 ト ー タ ル コ ス ト (期間 限定 複数 年度 のみ 記載) 0 0 0
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
	一般財源	千円	720	73	130	101	130	130	130	
	(A) 事業費計	千円	720	73	130	101	130	130	130	
	うち指定経費	千円								
	うち時間外、特殊勤務手当	千円								
	人件費									
正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1	1		
延べ業務時間	時間	70	70	70	70	70	70	70		
(B)人件費計	千円	278	279	279	279	279	279	279		
トータルコスト(A)+(B)	千円	998	352	409	380	409	409	409		
活動指標	人	2,223	2,051	2,600	2,081	2,100	2,200	2,300	目 標 合 計 値 画 22 年 度	
対象指標	人	4,000	4,050	4,100	4,100	4,150	4,200	4,250		
成果指標	人	未調査	2,000	2,100	2,100	2,200	2,300	2,400		
上位成果指標	人	3,738	3,738	3,300	3,300	3,950	3,950	3,950		
			8,325	8,325	6,500	6,500	9,860	9,860	9,860	

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か?いつ頃どんな経緯で開始されたのか?
「高齢者教養講座」は、昭和48年高齢者の教養向上と社会参加をめざして、当初「高齢者大学」として開設された。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
人口の高齢化が進行しており、年々対象者数は増加している。しかし、近年は組織(老人クラブ等)に加入する率は伸びていないので、高齢者扱いされることに抵抗を感じる市民が増えており、参加者人数は減少傾向にある。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?
予算削減に伴い、他の事業との共催で行われている講座が多く、もっと自主的な講座を増やして欲しいとの声がある。その一方で、参加者も減少していることから、旧西合志地域で行われていることぶき大学との共催も視野にいれるべきとの声もある。

事務事業名	高齢者教養講座事業	所属部	教育委員会	所属課	生涯学習課
-------	-----------	-----	-------	-----	-------

2 評価の部(SEE) *原則は20年度の後評価、ただし複数年度事業は20年度における途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ⇒【理由】↷ 高齢者にも生きがいを持ってもらい、元気に学習していただくことで、生涯現役の社会参加を促すことに結びつくから。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【理由】↷ 高齢者にも生きがいを持ってもらい、元気に学習していただくことで、生涯現役の社会参加を促すことに結びつくから。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ⇒【理由】↷ 対象、意図は現状では適切であるから。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】↷ 老人クラブ等の組織に加入しない高齢者が増えており、講座参加者も固定化していく傾向にあるから。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【理由】↷ 21年度計画(21年度に計画している主な活動)(PLAN) <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】↷ 高齢者から仲間とともに楽しく学習する大きな機会を奪い、向学意欲を減退させ、社会参加意欲を減退させると考えられるから。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input type="checkbox"/> 他に手段がある ↷ (具体的な手段、事務事業) <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】↷ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】↷ 旧西合志町地域でも、高齢者を対象とした「ことぶき大学」が行われており、これとの統合開催が可能であると考えられるから。 <input type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】↷
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】↷ 旧西合志町地域での「ことぶき大学」との統合開催により、経費の削減が可能であると考えられるから。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】↷ 旧西合志町地域での「ことぶき大学」との統合開催により、担当職員を一本化でき、人件費の削減が可能であるから。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】↷ 市の予算も限られているため、受講生がより高度の学習を希望し、そのために講師を依頼する場合などは、会費を徴収することも必要と思われる。

3 評価結果の総括(SEE)

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)
① 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ② 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③ 効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ④ 公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり	② 有効性については、年度計画段階で、講座参加者が固定化されないようなメニューを作って参加者数の増加を図る。 ③ 効率性については、準備期間において、旧両町の高齢者講座の統合を検討する必要がある。 ④ 公平性については、学習内容によっては受益者負担も考慮する必要がある。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	(2) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)																								
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	<table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上	○			維持					低下			
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上	○																							
	維持																								
	低下																								

(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策
旧西合志地域の「ことぶき大学」との共催については対象者が参加しやすい講座内容をよく検討することや、高齢者の弱点である交通の便の整備などを解決する必要がある。

5 事務事業貢献度評価結果(施策の統括課長の総括)

(1) 目的の直結度	5	(直結度高い 1~3 直結度中 4~6 直結度低い 7~9)
(2) 貢献度	6	(貢献度高い 1~3 貢献度中 4~9 貢献度低い 10~12)